

月の館

信濃観月文庫

通信

おみ
麻績村
発行 / 信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2

TEL・FAX (0263)67-3933

第28号

無一物中無尽蔵
 むいちもつちゆう むじんぞう
 在花在月在楼台
 はなありつきありろうだいあり



东峯

麻績村
 信濃観月苑
 平成三十一年
 八月
 三

草木屋の百色 桜染

山崎 樹彦



しだれ桜の着尺の一部

群馬県片品村花咲地区にあるオオヤマザクラ『天王桜』は、その近くにある村営の日帰り温泉『花咲の湯』の浴室の暖簾の制作を依頼されたとき、モデルになった木です。4枚の型紙で重ね染をした型染暖簾で、染料は松煙とラックだけを使って製作しました。染料としての桜は使用していませんが、本格的に桜染めを始めたのは、その頃からだったと記憶しています。暖簾を制作するのにあたり、その地域を取材してまわると、天王桜をはじめ、ブナの原生林、白樺、ダケカンバ、ナナカマドに、水芭蕉やザゼンソウ、ニッコウキスゲ等、季節によって魅力的な題材がたくさんありました。図案づくりとしての取材でしたが、当然、染料としての植物も目に入ってきます。桜やブナ、白樺、ヤシヤブシ、キブシ、クルミ、五倍子等 地域の人の協力を得て、身近な山野から季節ごとの染料を採集したい気持ちが大きくなり始めたころの話

です。特に、多くの図案を作っていた桜は染料としても常に使いたいものなのですが、剪定をしない木なので、手に入ることが難しかったのです。それでも、桜の小枝が欲しいと始終言っていたためか、染色をしている知人たちが、庭や畑にあるものを、切って届けてくれるようになりました。静岡から富士桜と河津桜が届いたり、千葉から千島桜が送られてきたり、彼岸桜、寒桜、染井吉野や八重桜、しだれ桜も色々な折にいただいています。桜の小枝の採取をお願いに行ってから、お付き合いの始まったところもあります。埼玉県皆野町のムクゲ自然公園では園内にある工房で、今も草木染講習会が続いていますし、群馬県下仁田町のさくらの里でも毎年、桜染の体験学習会が開かれます。桜の枝は基本的には頂けないのですが、ときに、風雨で倒れて、道をふさぐことなどもあり、処分するときにもらい受けます。そうした多くの方たちの

協力のおかげで、桜染は最も多く試験布染のできた染色の一つです。今までに四季を通じて繰り返し染めた桜の小枝の試験布染めでは、主に次のことに視点を置きました。

- 1、季節による色素の種類、量の違い
- 2、煮出す際の水と染料の量比
- 3、媒染の違い
- 4、煮出した染液の酸化の効果
- 5、一番液、二番液、三番液の違い

一年を通じ試験をした木もありましたが、小枝に関し



桜染のストール



『花咲の湯』浴室の暖簾



桜染のストール



桜の枝の試験布染

ての染色では時期によっての大きな変化はありませんでした。また、品種の違いだけでなく、その樹齢や生育環境によって違いも見られました。同じ時期の染井吉野でも生育環境の違いで、色素の含有量がずいぶん違うこともありました。しかし、発色の傾向は安定しています。一番注目した点は染料と水の量比です。適量であれば、赤味を持つのですが、染料が多すぎると黄味を帯び、さらに多くの染料を使えば薄いベージュになっ てしまいます。煮出した染液の酸化条件も色に反映します。どのぐらい酸化させるかによって色素が変化し、酸化させすぎて却って赤味を失う こともあります。

様々な視点を生かした試験布染とその後の実践による試行錯誤で、現在最も良いと思われる染液は、2cm程に切った桜の小枝150gを5ℓの水で煮出し、一晚酸化させて得ています。また、二番液は約3.5ℓの水で煮出し沸騰後30分で染液を取り、三番液は2.5ℓの水で染液をとり、同程度の濃度にして同様に酸化させ赤く濃い染液を作ります。この液を加熱し高温で染めれば桜らしい赤茶の染めになりますし、桜色を得るには赤い染液を水で薄めて、冷染でアルミ媒染をします。薄くした液を高温にすると色素が変質し茶味を帯び、ベージュになってしまいます。冷染で染め、媒染を終えて色素が固定されてから70℃ほどの湯に入れ加熱し沸騰直前まで浸すと、わずかな黄みも抜け綺麗な桜色になるのです。しかし、桜の状態によっては150g/5ℓという割合が良いわけではなく、その時々 に微調整をして良い濃度の液を作り出す必要があります。様々な条件の違いによって、そのたびに対応するのです。草木染では植物の見た目とは違う思わぬ色を得ることも多いのですが、桜はそのイメージ通りの色を得ることができ る染料です。しかし、その

色をより良い色に仕上げるのには、桜の基本的な性質をわ きまえた上で、その時々 の状態をよく認識して、染めなければなりません。時々訪ねてくれる親しい友人への自然な 気遣いのようなものが桜染にも必要なのだと思います。

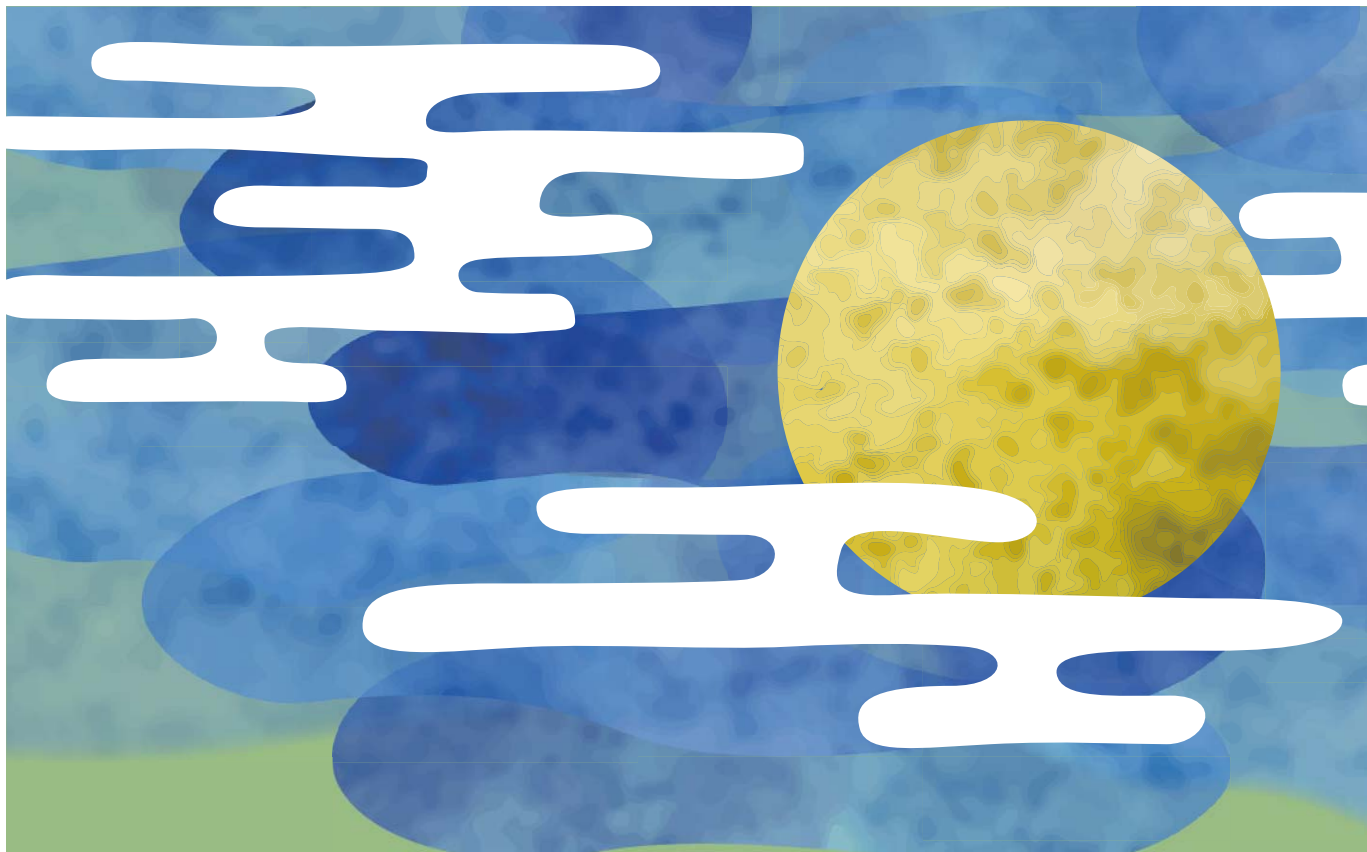


山崎 樹彦
(やまざき たてひこ)

一九五八年 群馬県高崎市生まれ
一九八二年 北海道大学理学部卒
父、山崎青樹の経営する草木染研究所に入所

実務を担当していた叔父、篠崎節に草木染及び草木染型染を学ぶ
二〇一一年 群馬県富岡市妙義町に移住

風土に根ざした草木染の確立に向けて研究、創作を行っている
草木屋代表、草木染伝習所主宰



俳句大会小学生入選作品展示風景

はじめてさんの 俳句

小林 貴子

あなたは俳句を作ったことはありませんか。
ちよっと作ってみようかなという方のため、手
ほどきをしましょう。

一、俳句の形

俳句というと、どんな句を思い出しますか。
小学校・中学校の教科書に載っているのは、

古池や蛙かむす飛びこむ水の音 松尾芭蕉

菜の花や月は東に日は西に 与謝蕪村

柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺 正岡子規

などでしょうか。江戸時代以来の伝統ある日
本の詩です。

俳句は「有季定型詩」といわれています。「定
型」は形が決まっていることです。和歌（短歌）
は五・七・五・七・七の三十一音で成り立っていま
すが、俳句はその下の句の七・七を捨てて、五・
七・五の十七音だけになりました。これは世界で
一番短い詩といわれています。

新聞記事は「いつ・どこで・誰が・何を・ど
のように・どうした」という項目をすべて伝え

なければなりません。俳句の限られた音数の中ですべてを伝えるのは無理なので、省略を効かせ、本当に言いたいことだけをズバリ表現します。

二、季語

俳句は「有季定型詩」だと言いましたが、「有季」とは、一句の中に季語を一つ入れることです。世の中には季語を入れない無季俳句の作り手もいますが、多くの人は季語を入れて俳句を作っています。上に引用した三句でいえば、「蛙」が春の季語、「菜の花」も春の季語、「柿」は秋の季語です。

これら、季語を集めた本を「歳時記」といいます。俳人は必ず用いますから、俳句を始めようと思う方は、歳時記だけは用意してください。書店に行くと文庫本サイズの一冊本から、単行本で春・夏・秋・冬・新年と、五分冊になっている厚いものまであります。まずは手軽なものだけっこうです。

季語は「春・夏・秋・冬・新年」と、五つに分かれています。四季と別に「新年」があります。これは、従来の日本人の生活の中で、年が改まることが最も大切な暮らしの節目であったこと

に由来します。

さて、歳時記の春を開いてみると、「春」の中もまた、項目別に分かれています。「時候・天文・地理・行事・生活・動物・植物」となっています。たとえば、時候には「立春」、天文には「春風」、地理には「春の山」、行事には「雛祭」、生活には「耕し」、動物には「鶯」、植物には「桜」などが載っています。今挙げた言葉は皆さんお馴染みのものですし、いかにも春らしい言葉とも思われるでしょう。季語を生かして使うと、俳句は季節の詩になります。

立春や月の兎は耳立て、 星野 椿

立春は現在の暦では二月四日です。まだ寒い時期ですが、前日に節分も終り、厳寒の頃に比べるといくぶん暖かくなってきたかなと思う頃です。この句の作者はその日の夕方、丸い月が昇るのを見て、月の兎は耳が立っているなど感じたのですね。

春風に尾をひろげたる孔雀かな 正岡子規

動物園の孔雀が立派な羽を開く様子を見ると、思わず感嘆します。この句は孔雀が春風を受けて羽を広げた瞬間を捉え、見ている人間ともど

も、春の良い日を楽しんでいる様子が伝わります。

絵巻物揚げゆく如春の山 星野立子

冬の厳しい山容から一転、春の霞の中にぼっと浮かぶ山並を見ながら人が移動すると、山の光景はまさに絵巻物のように展開していきま

す。美しい言い方ですね。
浅草に曳き船の音雛祭 皆川盤水



俳句大会 選者の先生方と参加者

三月三日の雛祭の日。作者が浅草界隈にいたところ、隅田川を行く曳き船の音を聞いたという句。たまたまその日にそういう経験をしたわけですが、たまたま雛祭だったという、この偶然を捉えるところが俳句の面白いところなのです。

山国の小石捨て捨て耕せり 沢木欣一

長野県のような山国で田畑を耕している人。

田畑の中にはまだ石もあり、それを排除しながら仕事にいそしんでいます。耕しの本質が捉えられています。

戸隠の鶯つねに遠からず 西本一都

戸隠神社に参詣の最中、鶯が「ホーホケキョ」と鳴く声を聞いた、幾度も聞いた、そのたびに、その声は近くから聞こえていたという句です。近いことを「つねに遠からず」といった、この表現に納得です。

まさなる空よりしだれざくらかな

富安風生

枝垂桜の背景は真つ青な空。なんとも光景が鮮やかな、美しい句です。

季語は本当にたくさんあり、初心者の皆さんに俳句を作って頂くと、必ずといっていいほど、季語が二つ以上入ってしまいます。しかし、世の中に季語が多すぎるのが事実ですので、そこできれいに、こつこつと勉強を続けると、季語の重ならない句が出来るようになります。

三、一物仕立てと取り合せ

ただいま引用した「山国の小石捨て捨て耕せり」の句と「浅草に曳き船の音雛祭」の句とは、句の中にある「切れ」について、違いがあります。

山国の句は一句の途中で意味が切れることなく、全体が一文で出ています。こうした句を「二物仕立て」の句と呼んでいます。

それに対して浅草の句は「浅草に曳き船の音」「雛祭」と二つに意味が分れており、散文でいえば二文から出来ています。こうした句を「取り合せ」、「二句一章」、「二物の句」などと呼んでいます。

どういうことか、大事なポイントなので、別の例句で説明しましょう。

退院の一步春風まとひけり 朝倉和江

入院していた人が退院の時を迎えた情景です。建物の外へ一步踏み出した時から春風をまとうように感じたのです。退院の喜びを一句全体で表現しています。これは「一物仕立て」の句といえます。

春風や人表より裏より来 星野立子

春風の吹く日。我が家へ玄関から尋ねてくる人もあれば、勝手口から尋ねてくる人もあるという情景です。かつて、隣人が勝手口から訪れていたころの日本家屋の賑やかさが彷彿とします。この句の「春風」と「人表より裏より来」のフレーズには直接的な関わりはありません。中七・下五の情景がすべて春風の吹く中のことだというわけで、上五の季語と、中七・下五のフレーズとの取り合せの句となっています。季語「春風」が一句全体を包み込んでいますが、直接関わりがあるわけではないので、極端に言えば、この「春風」を「秋風」とすげかえて、「秋風や人表より裏より来」と置くことも出来ます。

季語がたくさんある中で、どの季語がもっとも相応しいのか、俳人は常に事実をふまえて、季語のはたらきを考えつつ、最適の季語を俳句に入れていくのです。

また、この句は「春風や」と、季語に「や」がついています。これが切れ字の「や」で、ここで意味が切れることを表しています。

このあとに用まだ一つ春の風 星野立子

この句も取り合せの例です。「このあとに用まだ一つ」というフレーズと、季語「春の風」を取り合わせることで成り立っています。

四、切れ字について

春風や人表より裏より来 星野立子

古稀といふ春風にをる齢かな 富安風生

満月のいざなふ桜開きけり 塩川京子

一句目の「春風や」の「や」は切れ字だといいました。俳句に用いられる代表的な切れ字には「や」「かな」「けり」の三種類があります。「や」が上五にきて意味の切れ目をあらわすのに対して、「かな」「けり」は句末にくることが多く、感動を籠めてきっぱりと句を終える役割を担っています。切れ字を使うと、いかにも俳句らしい、格調の高い表現になります。

五、何を詠うか

俳句は季節の詩だといいました。季語を入れるので、自ずから春か夏か秋か冬か新年かの季節を詠うことになります。その上で、ただ単に季語を詠うわけではありません。季語を取り合せて、あなたが起こした行動や、あなたが感じた気持ちや、あなたが気づいた発見を詠います。

秋風や模様のちがふ皿二つ 原 石鼎

食卓に置かれた二枚の皿ですが、同じ皿ではなく、模様が違っています。こんな些細な日常の一光景でも、目を留めさえすれば一句になります。

この句のテーブルの上のように、その日、買物に出掛けた道すがらにふと目を留めた草花一つでも、帰りに感じた風の暖かさでも、何でも俳句になります。小さなメモ帳と鉛筆一本を常備して、どこへ行っても常に発見をメモしてみましよう。はじめから五・七・五の形にはなりません、まずメモをして、あとで形を整えることが大事です。

俳句は短い詩なので、どなたでも簡単に作り始めることが出来ます。まずは作ってみましょ

う。そしてまた、やればやるほど奥が深いことも事実です。

世の中には俳句を発表する雑誌の投稿欄や、仲間と一緒に集まって行う俳句会や入門講座などもあります。いろいろな機会がありますから、どこか探して、一緒に俳句を楽しみましょう。

小林貴子略歴



一九八一年信州大学学生俳句会、岳俳句会に入会。宮坂静生先生に師事。

二〇〇三年現代俳句協会賞受賞。

現在「岳」編集長。現代俳句協会副会長。

句集「海市」「北斗七星」「紅娘（てんとむし）」
著書「秀句三五〇選 芸」「もっと知りたい日本の季語」

ギャラリー展

江間廣・凡俱樂部作陶展

4月27日^土～5月13日^月

出展／江間廣・陶芸教室会員

草木屋 草木染展

5月18日^土～6月3日^月

出展／山崎樹彦・澄子 山崎杜人・山崎美季・山崎 梢

藍友禅 橋詰清貫の世界展

6月7日^金～6月9日^日

出展／橋詰清貫

日達れんげ きりえ「野の花束展」

7月1日^月～7月31日^水

出展／日達れんげ・チャールズ日達

更級花織工房展～あんずのいのちを絵絣に織る～

8月24日^土～9月2日^月

出展／窪田孟恒 協力 永岡真由美

岸田怜作陶展

9月6日^金～9月25日^水

出展／岸田 怜

天山窯 一條隆好作陶展

9月28日^土～10月14日^月

出展／一條隆好

ステンドグラス&ガラスアート展

11月7日^木～11月20日^水

出展／山口利一

最終日の展示は午後3時まで

冬期間や空いている間に、お宝展、俳句作品展、草木染の展示をすることがあります

観月苑文化講座

参加者募集中

山口勝人写仏教室〔第1土曜日〕

14:00～16:00

会費／前期・後期とも

各5,000円

講師／安養寺住職山口勝人

芭蕉講座〔第3木曜日〕

10:00～11:30

会費／月1,000円

〔前期・後期とも各6,000円〕

講師／「岳」同人窪田英治

「奥の細道」を読んでいます

楽茶碗をつくりましょう！

〔2回シリーズ〕

6月8日^土・22日^日

定員 10名 両日とも1日かけて行います

会費／材料費含め1,800円

講師／天山窯 一條隆好先生

初心者、実作者のための俳句講座

〔夏を予定（2回＋吟行会）〕

会費／一回1,000円 吟行会

にかかる費用は実費負担

講師／「岳」編集長 小林貴子先生

を予定しています

第27回月の里俳句作品募集

募集締切 **8月31日**

大人 3句一組（何組でも可） 投句料／1組 1,000円
 おおむね小学3年生～中学生 2句まで 投句料無料
 選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
 「黒姫」主宰・神田北童
 「岳」編集長・小林貴子
 「梟」同人・水上孤城

第20回曼陀羅の里 お月見俳句大会

10月5日

13:00～16:00
 当日句 2句一組（自由題）
 会費／1,500円
 （投句料・聴講料・懇親会費）
 選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
 「黒姫」主宰・神田北童
 「岳」編集長・小林貴子
 「梟」同人・水上孤城

第26回紅葉がりの茶会(予定)

9月15日

受付／10:00（受付終了14:00）
 定員／150名 会費／3,000円(予定)

この日は通常のお茶席、貸館はありません。

茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。
 時間 10:00～14:00 日時は変わることがあります。
 会費／一席 600円
 点心&お抹茶 2,500円（要予約。3名様以上）

4月29日 武者小路千家 亀の香茶稽古の会（松本市）

5月19日 表千家流 清流会矢口社中（筑北村）

6月9日 表千家流 鈴木康之（名古屋市）**濃茶**

6月16日 石州流 芳香庵松悠（筑北村）

煎茶道 黄檗東本流 長瀬鶴早（中野市）耕月軒

6月30日 裏千家 島津宗純社中（長野市）

8月25日 裏千家 小林宗智社中（長野市）**ゆかた茶会**
 ゆかたでどうぞ

10月27日 表千家流 中曾根宗美社中（上田市）





みんなで歌いましょう！
合唱指導とテノール独唱

6/30 日

14:00
～ 16:00

場所／月の館大寄せの間

講師●テノール独唱／島津 和^{しまづ}平^{かずへい}

ピアノ伴奏と独奏／津金 真裕美
(武蔵野音大卒・ピアノ講師)



おく むら み か
奥村 美佳ピアノコンサート

9/1 日

場 所／月の館大寄せの間

参加費／おとな 1,500 円 ピアノ／奥村 美佳

演奏予定曲目 ショパンを中心に

14:00
～ 15:30

とお やま のぞみ いま い ち なみ
遠山 望・今井 千波

デュオリサイタル

場 所／月の館大寄せの間 参加費／おとな 1,500 円

サクソフォン／遠山 望 ピアノ／今井 千波

ゲスト●ファゴット／丸山 佳織

演奏予定曲目 ファゴットとチェロのためのソナタ (モーツァルト)

トスカ・ファンタジー (ブッチーニ)

映画音楽集 他

11/10 日

14:00
～ 15:30



第二十六回 月の里俳句入選作品

一般の部

佐藤文子選

特選 炎天下どこかにひそむ暗殺者
一木一草燥ぎ出したる晩夏かな
山崎 妙子

秀逸 雲掃き終へ空は蜻蛉を降ろしけり
世にすねて臍曲げてゐる大茄子
小伊藤美保子

昇り来る月を両手で包みをり
成保 房子
寺島美美子

神田北童選

特選 原爆忌日の匂ひする潦
蟲すだく生きた証を渾身に
松 久美
飯島千花梨

秀逸 木曾御嶽虚空さまよふ葛の蔓
早天のダム底の墓二つ三つ
西川 房子
佐藤 哲也

ざざと来て一日林に鹿鳴けり

佐藤文子選

特選 太陽よ少しはなれてくれないか
ドングリが木から落ちて一人旅
共和小学校 四年生 長沼 廣樹

秀逸 夏祭り笑顔の花がまい上がる
サイダーをのんだらみんなはじけだす
共和小学校 六年生 高野 叶翔
坂井小学校 五年生 吉池 康希

入道雲海の広さをはかっている
辰野西小学校 三年生 白山 陽向

神田北童選

特選 入道雲海の広さをはかっている
夏休みペットボトルも汗をかく
辰野西小学校 三年生 白山 陽向
共和小学校 六年生 星澤 茉拓

秀逸 ねこじやしこちよこちよあそぶともだちと
花火咲く胸の鼓動とハーモニ
共和小学校 一年生 しみずいのり
共和小学校 五年生 嶋居 望乃
共和小学校 五年生 甘利 心菜

光る星寒さに負けず歌ってる

小林貴子選

特選 九月の川蛇腹延ばして流れをり
枇杷の実や断層著き淡路島
酒井 和子
小伊藤美保子

秀逸 赤松の宿す女性や梅雨の月
神木の八面開き小鳥くる
久根美和子
野口 和男

水牛の皮貼る太鼓涼新た
小伊藤美保子

水上孤城選

特選 仏壇の桃に赤子の指のあと
新涼や仔豚の腹に聴診器
荻久保八重子
黒沢 孝子

秀逸 雲に名を十ばかりつけ泳げぬ子
秋涼しあまたの川は淡海へと
山崎 妙子
中溝 玲子

振花や扱いてみてもいいですか
石原 孟

小林貴子選

特選 カブトムシつのがリアルでビビルおれ
太陽よ少しはなれてくれないか
坂井小学校 五年生 高塩 亮真
共和小学校 四年生 長沼 廣樹

秀逸 入道雲海の広さをはかっている
一人だけ何もつれずにじぼうじき
辰野西小学校 三年生 白山 陽向
共和小学校 六年生 渡サイヅン 羅

エサをあげフナを育てて食べました
麻績小学校 五年生 桐山 華奈

水上孤城選

特選 風ふくと綿毛は長い旅に出る
入道雲海の広さをはかっている
共和小学校 六年生 宮澤 咲希
辰野西小学校 三年生 白山 陽向

秀逸 見守ってうでが外れたかかしさん
灼熱に忘れてならぬきのこ雲
麻績小学校 五年生 久保田悠太
共和小学校 四年生 島田 素

空の海入道雲が波になる
麻績小学校 六年生 佐藤 隆星



耕月軒の降りつくばい

耕月軒の楓

小学生の部

信濃観月苑をご利用ください

広く文化活動や研修会、お茶会等にどうぞ
お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX 0263-67-3933
メール kangetsu@vill.omi.nagano.jp

小間の茶室「清香亭」

■利用料金 / 1会 10,000 円



ギャラリー

展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金 / 半日 5,000 円・1日 10,000 円



観月堂

お茶会、句会、月見の宴などにご利用ください。

■利用料金 / 半日 5,000 円・1日 10,000 円



大寄せの間

(2F 40 畳和室) ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などにご利用ください。

■利用料金 / 半日 3,000 円・1日 6,000 円



広間の茶室「耕月軒」

■利用料金 / 半日 5,000 円・1日 10,000 円

お抹茶 600 円 (要予約)
点心 2,000 円 (3名様より。要予約)

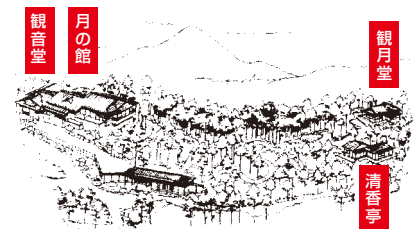
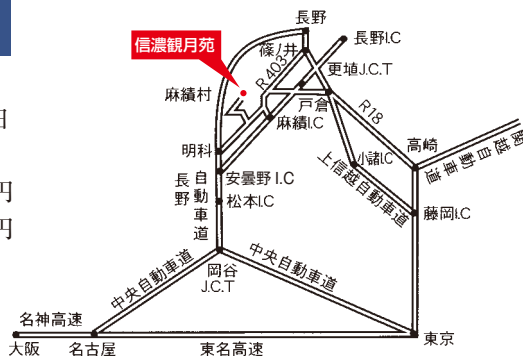
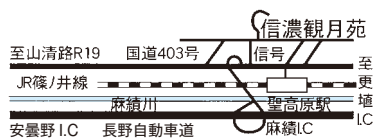
グランドピアノ KAWAI GM-10

■利用料金 / 半日 5,000 円・1日 10,000 円

信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村〒399-7701
TEL/FAX (0263) 67-3933

開苑時間 午前9時～午後5時
休苑日 毎週火曜日 (火曜祝祭日は開苑、水曜休苑)
入場料 個人 高校生以上 300 円
小人 150 円
団体 20 名以上 2 割引



麻績村のホームページ <http://www.vill.omi.nagano.jp>

表紙 / 平成の次の時代、手付かと思える地域の復旧復興が一日でも早く成し遂げられ、平和が続くことを祈りつつ・・・